

日程計算の実行、及びクリティカルパスの表示

工程's をサクサク使いこなすための**基本操作**や、知っていると役立つ**ちょっとした小技**をメールマガジン形式でご紹介します。

第13回の今回は「**日程計算の実行、及びクリティカルパスの表示**」です。

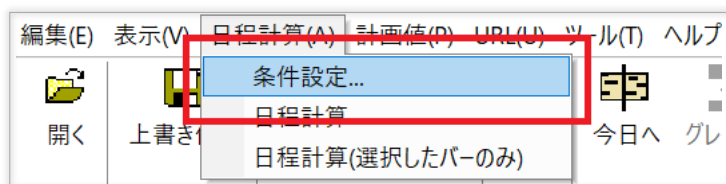
日程計算とは、現在日を基準として、各作業の期間、コンストレイント、およびカレンダーを考慮しながら作業バーを再配置します。現在日から作業を開始した場合、最短でいつ計画が終了するのかリードタイムを把握することができます。

クリティカルパスとは、1日でも遅れるとプロジェクト全体の終了が遅れる作業の流れを言います。クリティカルパスを発見することで遅れてはならない重点管理工程を確認したり、クリティカルパスの作業短縮により、工程全体の期間の短縮が可能です。

操作方法

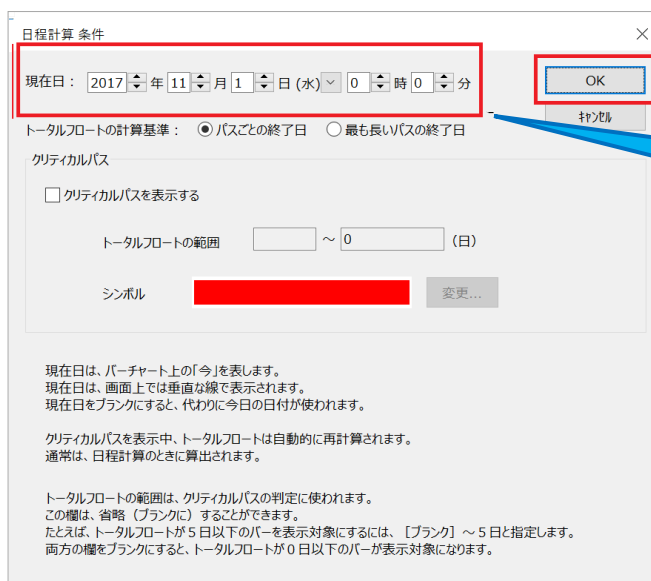
1. 日程計算を実行する準備として現在日を設定しましょう

- ① 「日程計算」メニュー > 「条件設定」をクリックします。



- ② 「日程計算」ダイアログの「現在日」で日程計算する基準となる日にちを設定、[OK] をクリックします。

- 現在日は日程計算において工程作成の基準日となります。現在日は日程計算の基準日であり「今日」という意味ではありません。



【現在日】で日にちを設定後、
【OK】をクリック

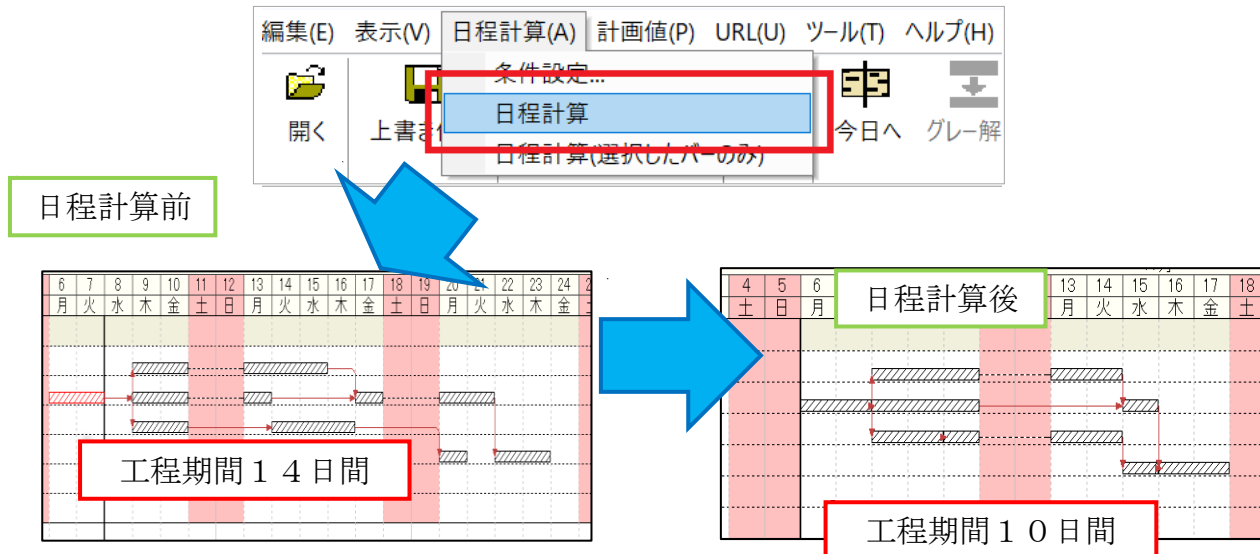
現在日は、バーチャート上の「今」を表します。
現在日は、画面上では垂直な線で表示されます。
現在日をブランクにすると、代わりに今日の日付が使われます。

クリティカルパスを表示中、トータルフロートは自動的に再計算されます。
通常は、日程計算のときに算出されます。

トータルフロートの範囲は、クリティカルパスの判定に使われます。
この欄は、省略（ブランク）にすることができます。
たとえば、トータルフロートが5日以下のバーを表示対象にするには、「ブランク」～5日と指定します。
両方の欄をブランクにすると、トータルフロートが0日以下のバーが表示対象になります。

2. 日程計算を実行しましょう

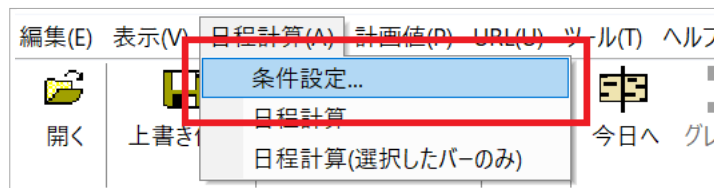
- ① [日程計算] メニュー > [日程計算] をクリックします。



- 日程計算を実行すると、現在日を基準としてバーが前詰めで再配置されます。
- 日程計算で移動させたくないバー（期間を変更したくない確定している工程）は、[バー情報] ダイアログで [バーを移動しない] にチェックを入れてから日程計算を実行して下さい。
- できる限り遅く開始したい工程がある場合は、該当する作業バー [バー情報] ダイアログで [後続に影響しない範囲で遅く開始する] にチェックを入れてから日程計算を実行して下さい。

3. クリティカルパスを表示させましょう

- ① [日程計算] メニュー > [条件設定] をクリックします。



- ② [クリティカルパスを表示する] をチェックし、[OK] をクリックします。

- クリティカルパスのシンボルは [日程計算 条件] 画面 > [シンボル] > 変更ボタン で変更できます（デフォルトは赤色です）。
- クリティカルパスは複数存在する場合があります。各作業の進捗状況により時々刻々変化していきます。

